

◆年末年始 恒例祭のご案内

○大祓式 歳晩祭

十二月三十一日 午後 時

半年に一度個々の罪穢れを形代で祓うと共に一年の御加護に感謝を捧げます。 ※参列自由ですが、出来ない場合は、神社よりお配りした形代(大形)にて各自お祓いをし、清々しく新年をお迎え下さい。事前又は元旦も可)

○元旦祭 家内安全特別合同大祈願祭

併せて、初日を拜む会

一月一日 午前六時半

新年を言祝ぎ、皇室の弥栄と国家の繁栄、そして氏子崇敬者の平安と幸福を祈念致します。 ※どなたでも参列出来ますので、希望者は十五分前までお越し下さい

○暁まいり・小正月 女正月

一月十五日 金 午前零時

日本各地にて厄落としの行事が行われており、当社にては、古より特にこの日に厄祓を行っております。

○どんと祭

一月十五日 金 午前六時～八時半

古いお神札などを清浄な火でお焚き上げし、御神火に無病息災を祈ります。

◆御祈禱のご案内

○新年家族並個人及団体祈禱

一月一日 午前零時～午後四時

※ 随時御奉仕しておりますが、お受け出来ない時間もありますので事前にご連絡下さい

※ 元旦午前零～一時、九～十二までは兼務社出向の為官司不在につき神職の本田様に「祈禱をお願いしております」ことを申し添えます。

二日以後は通常通り予約制にて午前九時～午後四時頃まで毎日行います

家内安全、厄除、商売繁盛、合格祈願 等

○年末年始 神棚祭 氏神祭 家祓等

要予約

平成二十一年厄年表

お早めにお祓いをお受け下さい

※ 上 生まれ年 / 下 数え年

	前厄	本厄	後厄
男性	昭62年 24歳	昭61年 25歳	昭60年 26歳
	昭45年 41歳	昭44年 42歳	昭43年 43歳
	昭25年 60歳	昭24年 61歳	昭23年 62歳
女性	平5年 18歳	平4年 19歳	平3年 20歳
	昭54年 32歳	昭53年 33歳	昭52年 34歳
	昭50年 36歳	昭49年 37歳	昭48年 38歳

一月の行事 予定

○二日 節分祭

福豆をお配り致しますので各戸で元氣よく豆まきをして下さい

○十一日 紀元節祭 奉祝県民大会

神社では日本の建国を奉祝し建国祭を執り行い、その後市内中心部で行われる祝賀式典に参加します。

○十七日 頃 祈年祭

収穫を祈る大祭で新嘗祭とともに全国の神社で行われる重儀

例大祭のお知らせ

平成二十二年の例大祭は四月十五日を守りつつ十日(木)に神輿渡御、十一日(日)に奉祝行事を行いたいと思っております。

坪沼カラオケ教室からのお知らせ

歌い初め歌謡ショー・一月十六日十時

ホームページ <http://坪沼ドットJp>をご覧ください

編集後記

年々初詣の方が増えているようですが、何より皆さんの神社ですので、お参り頂きたいと思っております。さて来年は寅年「寅」は春が来て草木が生ずる状態を表していると言われており、明るい未来が見えるよう願うとともに、脈々と続く日本民族の魂が、再び遍く人々の心に芽生えることを期待します。

坪沼八幡神社社報

奉祝 天皇陛下御即位二十年



天皇陛下御即位二十年奉祝神輿渡御

◆ 神の恵みと祖先の恩とに感謝しましょう

◆ 初詣は先ず氏神さまへ

◆ 月に一度は神社をお参りしましょう

奉賛 伊勢神宮式年遷宮 平成二十五年

二 挨拶

坪沼八幡神社社報 第七号
発行所 坪沼八幡神社社務所
代表者 宮司 高山晃和
仙台市太白区坪沼字鶴前六十九
電話 二八二一五八九 FAX 〇六五一

本年は畏くも天皇皇后両陛下におかれられますは、御即位されてより二十年の佳節を迎えられ、あわせて御成婚五十年の御目出度き年となり、各地で国民齊しくお祝い申し上げる事が出来ましたこととは真に喜ばしく、まさしく神の国、御皇室の御安泰と、御聖徳を頂く我が国と国民の弥栄をお祈り申し上げる次第です。さて、今年の丑年もあとわずか、思い返すと不況からはじまり政権交代等様々な出来事がありました。特にエコについて新たな取り組みがなされましたが、元より私たちの国では、「鎮守の森」を見て分かるように昔から緑を愛し、海や山、草木に至るまで魂が宿っていると、時には恐れ、時にはその恵みを頂き共生してまいりました。そこに神道の始まりがあり、本来日本人は、自然環境について世界の模範たる基盤が備わっているのですから、自らを見つめ直し神ながらの心に立ち返ることが第一歩だと思います。

伊勢の神宮と式年遷宮

さて、そのような日本人が特別な思いで二千年以上も護ってきた広大な森林で覆われた神のまします地・伊勢の神宮。日本の総氏神として親しまれ、誰しも神を感じずにはいられない日本の聖地。その中心は皇室の御祖先神である天照皇大神と、天照皇大神の食事を司り、衣食住はじめ産業の守り神である豊受大神です。その神宮で二十年に一度の式年遷宮が平成二十五年に行われます。皇大神宮の御正宮をはじめ百二十五ある神様のお住まいである御社殿等一切を造り替える神様にお移り頂く祭で、その歴史は古く千三百年間継承されてきた世界に類なきお祭です。この度の第六十二回式年遷宮は五百五十億円かかるといわれており、その規模は計り知れないほど大きいものです。二十年という理由は様々な説がありますが、やはり人間にとっても一つの区切りで、親から子、師匠から弟子へ生きたる知恵や伝統技術を伝える為に適切な年数といえます。そこには心の伝承も含まれ、代々確実に繋げることによって「常若」という永遠を得ていくまでもみずみずしい神の御加護を願ったのです。

天皇陛下御即位二十年奉祝神輿渡御

本年は誠にめでたい年に当たり、皇居では十一月十二日御即位を宣言された日から二十年にあたり、五万の国民が集い国民祭典が行われました。それに先立ち宮城県では、十月二十四日奉祝県民大会が行われ、当社では連合神輿渡御に参加しました。当日は総代役員ほか各地区から選抜された若き精鋭たちが市内一番丁を他の七基の神輿と一緒に巡行し、大いに暴れ坪沼の伝統を披露してまいりました。底知れぬ担ぎ手の力に沿道の観客も驚いていました。十年ぶりとなりますが、地域の結束がはかられたことは素晴らしいと思います。直会では婦人部の御馳走もあつてか、意気も上がり遅くまで熱く盛り上がりました。我が国は二千年の悠久の歴史をもち、中心に万世一系の天皇陛下をはじめ皇室を頂いて今日まで発展を遂げてきた国柄です。御即位されてより二十年、困難も様々



一番丁を練る坪沼の神輿

ありましたが、陛下の国民を思う御心にどれだけの力が救われたか。皇室を敬慕するのは素直な日本民族の心の現れです。DVD千円)

夏越大祓式齋行

全国の神社では、一年間を無事に過ごすことを祈念して年に二回大祓式が執り行われる。当社社において一年の半ば七月三十一日午後三時より「夏越大祓式」が齋行された。古来より「水無月の夏越の祓いする人は千歳の命のぶといふなり」とうたわれ、参列者は宮司につき「形代祓い」と茅



茅の輪が飾られた拝殿

の輪くぐり」を行い心身の罪・穢れの一切を祓い清めた。尚、予めお預かりした人形は、みな代わりにお祓いを受けた後、大海原に祓い流された。

第二十二回「蛭と平家琵琶の夕べ」開催

ふるさと坪沼実行委員会主催



平家琵琶に酔いしれる観客

七月四日(土)午後六時過ぎより神社境内で二十一回目を飾る坪沼の夏の風物詩「蛭と平家琵琶の夕べ」が今年も天候にも恵まれ、千人以上の内外の人達を迎え盛大に開催されました。また蛭の生息地の整備もされ、環境作りにも取り組んでおります。

新嘗祭齋行

今年も十一月二十二日に恒例の新嘗祭が総代、若長参列のもと厳粛に齋行された。本年の豊作物の恵みとして氏子より奉納された新穀などが当日御神前に献備され、終了後の直会では神社に協力頂いたみなで芋煮を食し収穫を祝った。新嘗祭は古くから天皇陛下がその年に収穫された新穀や新酒を天照大御神をはじめとする天地の神に供える儀式であり、穀物の豊穰と国家の安泰を祈る二月十七日の祈年祭と並ぶ大祭として全国の神社にて執り行われる最も重要な祭儀である。



八幡大神様のお導きと氏子崇敬者皆様のお支えにより

三月十日付をもって昇級致しました。氏子の皆さんには盛大にお祝いいただき、更に装束もお贈り下さいました。皆様のお力になれるように、神様との仲取り持ちとして今後も精進努力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



坪沼の昔めぐり

愛宕神社 第二回

坪沼の歴史や伝説、史跡等を紹介し、標高三百二十四尺、太白山より三尺高く政令指定都市の合併以前、旧仙台では最も高い山で、坪沼のシンボルでもあり、今も子供たちが遠足に登るなど広く親しまれている山です。頂上には火伏せの神愛宕神社(詳細不明)が祀られており、立派な社と鐘楼が建っております。しかし裏斜面は碎石の採掘によって岩肌がむき出しの断崖絶壁で、頂上の社も北風にあおられ今にも倒れそうな状態でした。

この度、愛宕山を代々守ってきた東より谷地・倉本・山ノ田の三軒が浄財を出し合い、カナワ大工さんに御宮の修理を依頼され、十一月九日工事はじめのおまつりを行い、ひと月余りかけて修復、新たに頑丈な覆殿を建ててしばらくは安心な御宮になりました。去る十二月十九日八



完成した愛宕神社覆殿



竣工奉告祭に参列した皆さん

敬婦だより

今年も敬婦人講の皆さんには例大祭をはじめ、数々の行事にご奉仕を頂き、各行事の直会では、役員の皆さんが中心となって、協力会は発足三年、神社にとりまして欠かさない存在となりました。例大祭をはじめ神社の整備事業や芋煮会にと婦人部とともに活躍いただき、神社の様々なことへご協力頂きました。神社への奉仕を通して、伝統文化の継承が図られるよう願います。来年は会員の声により、神池の整備に関係団体と一緒に取り掛かって頂く予定です。

協力会だより

今年も敬婦人講の皆さんには例大祭をはじめ、数々の行事にご奉仕を頂き、各行事の直会では、役員の皆さんが中心となって、



坪沼の受付嬢の皆さん

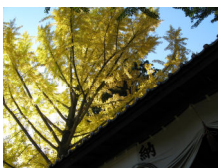
植樹のお願い

美しい鎮守の森を育てる為、「かえで」や「山もみじ」など色とりどりに紅葉を楽しめる落葉樹などご奉納願います。榊も承っております。

結の里 坪沼「CD化」

河北新報にも取り上げられましたが、収穫祭でおなじみの山形の百姓歌手須貝智朗さんが、坪沼の為にとてもいい歌を作りました。千円で販売します。

今年も十一月二十二日に恒例の新嘗祭が総代、若長参列のもと厳粛に齋行された。本年の豊作物の恵みとして氏子より奉納された新穀などが当日御神前に献備され、終了後の直会では神社に協力頂いたみなで芋煮を食し収穫を祝った。新嘗祭は古くから天皇陛下がその年に収穫された新穀や新酒を天照大御神をはじめとする天地の神に供える儀式であり、穀物の豊穰と国家の安泰を祈る二月十七日の祈年祭と並ぶ大祭として全国の神社にて執り行われる最も重要な祭儀である。



あじさいを植樹する総代